

日本代表チーム欧州遠征 (8)



SemiFinal A/Bへ進出を決めたLM1xの福井選手（東レ滋賀）

World Cup II

6/19（金）レース1日目

いよいよレース当日、天気はよく、レース開始前は片岡選手、田立選手、西村選手、今井選手のフオア、男子ダブル、高島選手が乗艇しました。フオアは短く乗艇したあと、朝食をとりに一度ホテルへ。高島選手の乗艇後もコーチ陣がリギングし、万全の状態ですレースに出られるよう調整しました。

左上: LW1x 高島選手 (米子東高校)
 左下: LM4- 杉嶋選手、石田選手 (ともに東レ滋賀)、小林選手 (戸田中央総合病院RC)、陶山選手 (明治安田生命)
 右上: LW2x 上野選手、上田選手 (明治安田生命)
 右下: LM2x- 須田選手 (アイリスオーヤマ)、浜田選手 (明治安田生命)



日本勢最初のレースは男子シングルスカルの福井選手と古田選手。あいにく同じレースになってしまいましたが、2人で準決勝進出目指して出艇しました。バレーゼではラスト250m程度しか陸から観戦することができないため、実況中継もしくはホームページのLive trackerだけが頼りです。



トップでゴールしSemiFinal A/Bへ進出を決めたLM2x (中野選手 (NTT東日本)、大元選手 (アイリスオーヤマ))



SemiFinal A/Bへ進出を決めたLM4- (片岡選手 (明治安田生命)、田立選手 (戸田中央総合病院RC)、今井選手、西村選手 (ともにNTT東日本))

レース序盤より中継で福井選手と古田選手の名前が連呼されており、若い日本選手の健闘が話題になっていましたが、ラストでは福井選手2着には届かず。古田選手は5着でゴール。午後の敗者復活戦で再度挑戦ということになりました。

第二陣は女子シングルスカルの高島選手。急遽種目変更となり、艇のリギングにコーチ陣も苦戦しましたが、無事レースに出ることができました。今回は高島選手にとって終始苦しいレースとなり、4着でゴール。8:00.23と国内ではめったに見られないタイムでしたが、世界の壁は高いようです。

男子ダブルはJPN1の中野選手、大元選手が先のレース。オリンピック種目はクルー数が多いかつレベルが高いため、1着でゴールするクルーはやはり圧倒的。そのなかでも中野・大元クルーは2着のポーランドといい勝負をし、3着でゴール。須田選手、浜田選手のレースは組4着。準決勝進出でさえ狭き門です。

左上・左下: LM2x 須田選手（アイリスオーヤマ）、浜田選手（明治安田生命）
 右上: LM1x 古田選手（明治大学）
 右下: LM2x 中野選手（NTT東日本）、大元選手（アイリスオーヤマ）



女子ダブルも非常にレベルが高く、序盤より苦戦を強いられました。速いフルーは7分を切るという日本人にとっては驚異的なタイムを出していました。4着となり敗者復活戦へ。

男子フォアは先に杉嶋選手、石田選手、小林選手、陶山選手のJPN2フルー。周りのフルーが6分50秒前半を出しており、非常に厳しいレースとなりました。JPN1は片岡選手、田立選手、西村選手、今井選手。第一クォーターは全艇横並びだったのですが、その後徐々に間を離され5着でゴール。

日本勢は全フルーが午後にある敗者復活戦に回りました。

敗者復活戦1レース目はまたもや同じレースになったLM1Xの福井選手と古田選手のレース。5フルー中2フルーが準決勝に進出するという狭い枠争いになりました。福井選手は第一クォーターをトップで駆け抜け、それ以降は安定したスピードにより2着の座を確固たるものにし、3着に水を開けてゴールし、準決勝進出を決めました。古田選手は猛烈なラストスパートにより5着のオーストリアを振り切り4着でのゴール。明日のFinal Cへと駒を進めました。

次はLW1Xの高島選手のレース。出漕フルーが13フルーしかなかったため、この敗者復活戦で最後にゴールしたフルーは明日以降レースがないという状況でした。予選では勝つことができたラトビアの選手に3秒つけられ敗退してしまいました。タイムは8分切りの07:55.13と、高校生にしては脅威のタイムでした。戦うフルーはシニアの選手が多い中漕歴3年目にしてよく健闘しました。

次のダブルスカルの敗者復活戦では日本フルーがまたもや同じレースになり、上位2フルーの座を狙いました。序盤より中野・大元フルーは先頭をとり、2位は須田・浜田フルーとスイスの熾烈な戦いとなりました。お互い一步も譲ることなく、ラストまで並んでおり、先頭をとっていた中野・大元フルーは1着でゴール。スイスと並んでいた須田・浜田フルーはあとわずかに届かず、3着となりました。大接戦の末、JPN1 中野

選手・大元選手は準決勝、JPN2須田選手・浜田選手はFinal Cに進むことになりました。

女子ダブルスカルは4クルー中上位2着の座を争うことになりました。ハイレベルなクルーばかりがいる中、上野選手・上田選手はなんとか食らいついていこうとしましたが、相手の背を見ぬまま4着でゴール。準決勝に進出したクルーのタイムは7分を切っているところもあり、日本選手にとっては厳しい舞台となりました。全体のタイム順より、Final Cに進出が決定しました。

LM4-もJPN1（片岡・田立・西村・今井）とJPN2（杉嶋・石田・小林・陶山）の両クルーが同じレースとなりました。5クルー中上位3クルーが準決勝進出となります。序盤より横並びの激しいレースとなり、JPN1・JPN2共に食いついていく形になりましたが、第4クォーター、JPN1の決死のスパートにより一気に上位3クルーに入り込み、3杯で競り合う展開に。結果、オーストラリアの次に滑り込み、2着となりました。JPN3は第3クォーターより上位集団から離れてしまい、5着でゴール。JPN1は準決勝、JPN2はFinal Cへと進むことになりました。

全体でLM1X JPN1福井選手、LM2X JPN1中野選手・大元選手、LM4- JPN1片岡選手・田立選手・西村選手・今井選手の3クルーが準決勝へ進出し、LM1X JPN2古田選手、LM2X JPN2 須田選手・浜田選手、LW2X 上野選手・上田選手、LM4- JPN2杉嶋選手・石田選手・小林選手・陶山選手がFinal Cへと進出することが決まりました。

日本チーム大健闘しております。

明日も勝利を目指して一丸となつて戦いたいと思います。